O1-46

外発的動機付けにより異常姿勢改善を認めた一例

木沢記念病院 中部療護センター

○堺田 麗加、和田 哲也、浅野 愛子、岩井 香織、槇林 優、浅野 好孝、篠田 淳

【はじめに】瀰慢性軸索損傷患者は、姿勢制御システムの障害や廃用などの原因で異常姿勢を呈していることは少なくない。異常姿勢は、様々な作業活動やADLなどの阻害因子となり、改善は非常に困難である。今回、車椅子乗車時に頭頸部・体幹の異常屈曲により顔面が下を向いた姿勢を呈する患者に対し、1日を通して能動的な動作を引き出す為に外発的動機付けとして音の鳴るボタンスイッチを用いて働きかけを行った結果、姿勢改善を認めたので報告する。

【症例】32歳、男性。交通事故にて受傷、同日に穿頭・開頭外減圧手術、約3ヶ月後に骨形成、シャント術施行。約10ヵ月後、リハビリ目的で中部療護センターに入所となり、リハビリ開始。コミュニケーションは書字にて可能、理解も日常会話レベルである。

【方法】車椅子のヘッドレストに音の鳴るボタンスイッチを設置。車椅子乗車時に頭頸部・体幹を伸展させ、音を鳴らすよう促した。また、本人にボタンスイッチへの興味や押す理由などを聴取した。

【結果】頭頸部・体幹の伸展頻度、良姿勢での車椅子乗車時間の増加を認めた。聴取では、音が鳴ることではなく押す感触に好感を持ち、繰り返し頭頸部・体幹の伸展を実施しているという回答を得た。

【考察】ボタンスイッチが外発的動機付けとなり、1日を通して能動的な動作を促したことで、背筋群の筋力が増強し良姿勢での車椅子乗車が可能になった。瀰漫性軸索損傷患者の能動的な動作を引き出す一手段として道具を用いて外発的動機付けを行うことが有用であると示唆された。また、外発的動機付けを行う際には、音だけでなく、感触・見た目などの要素も考慮して実施する必要があると考えられた。